

# 日本社会福祉士会生涯研修制度と認定社会福祉士制度 ～社会福祉士資格取得後のキャリア形成と養成体系～

## ■社会福祉士として私たちは何を目的とするのか（求められている事項）

社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行う。（法第2条）

そのために  
何が必要か

- ・ 実践力を向上させる。
- ・ 社会福祉士の社会的認知を獲得し、実践のための環境を整える。
- ・ ソーシャルワーク機能を発揮できる職域を拡大する。

など

具体的には、

- ①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割
- ②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割
- ③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割

（社会保障審議会福祉部会意見）

## ■実践力を向上させる（研鑽の義務）

社会福祉士又は介護福祉士は、社会福祉及び介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適応するため、相談援助又は介護等に関する知識及び技能の向上に努めなければならない。（法第47条の2）

そのための  
支援制度  
として

### 生涯研修制度

- ・ 研鑽の機会の提供（研修の開催）
- ・ 研鑽状況の確認（課程修了申請）
- ・ 義務履行状況の社会への公表（課程修了申請率の公表）

## ■キャリア形成を支援するシステムの目的

**生涯研修制度**  
（社団法人 日本社会福祉士会の制度）

**認定社会福祉士制度**  
（認定社会福祉士認証・認定機構の制度）

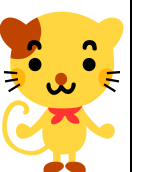
- ・ 専門職の資質の向上のための研修に関する制度です。
- ・ 生涯研修制度の修了認定は、研鑽を積んでいる社会福祉士であることを証明します。

- ・ 実践力があることの確認と公表（社会的認知）のための制度です。
- ・ 研修受講により、研修をしている社会福祉士であることに加え、実践経験や実績についての評価を行い、実践力があることを証明します。

## ■基礎研修の全体像 ※基礎研修は認定社会福祉士認証・認定機構の認証を受けています。

共通専門科目	権利擁護法学系科目 I (2 単位)	地域開発・政策系科目 I (2 単位)	サービス管理・経営系科目 I (1 単位)	実践評価・実践研究系科目 I (2 単位)	人材育成系科目 I (1 単位)	SW理論系科目 I (2 単位)	本会独自の研修 (3.5 時間)
基礎研修 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 倫理綱領・行動規範の理解</li> <li>■ 社会福祉士の倫理綱領の実践適用</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会福祉士としての専門性について考える</li> <li>■ 社会福祉士に共通する専門性の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会福祉士のあゆみ</li> <li>■ 日本社会福祉士会、都道府県社会福祉士会の組織</li> <li>■ 生涯研修制度</li> </ul>
基礎研修 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会福祉における法 I</li> <li>■ ソーシャルワークと権利擁護の視点 I</li> <li>■ 社会福祉における法 II</li> <li>■ ソーシャルワークと権利擁護の視点 II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会資源の理解と社会資源開発</li> <li>■ 連携システムのあり方とネットワークの構築</li> <li>■ 地域における福祉政策と福祉計画</li> <li>■ 社会福祉調査の方法と実際</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【実践研究の方法】</li> <li>■ 実践研究の意義と方法</li> <li>■ 実践研究のための記録</li> <li>■ 実践評価の方法</li> <li>■ 実践研究発表の方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スーパービジョンとは</li> <li>■ スーパービジョンのモデルセッションを見る</li> <li>■ スーパーバイザー体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 相談援助の視座と展開過程</li> <li>■ 実践のためのアプローチ(ソーシャルワーク実践理論・モデルから学ぶ)</li> <li>■ 自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク</li> <li>■ 実践事例演習</li> </ul>	
基礎研修 III	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 意思決定の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域における福祉活動の実際</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社会福祉の組織と組織マネジメント（職場コーディネート）の意義、会議運営</li> <li>■ 情報共有・継続の仕組み（記録・カンファレンス）、サービスの質の管理、サービス評価・第三者評価</li> <li>■ リスクマネジメント、苦情解決システム（苦情受付・分析・解決）、緊急介入事案の対処方法</li> <li>■ 事例研究（苦情、リスク、サービス評価）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【事例研究の方法】</li> <li>■ 対人援助と事例研究</li> <li>■ 事例研究の基本枠組み</li> <li>■ 事例研究の方法としてのケースカンファレンス</li> <li>■ 事例研究のための事例のまとめ方</li> <li>■ 模擬事例検討会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新人教育プログラム</li> <li>■ スーパービジョンのモデルセッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実践事例演習</li> </ul>	

基礎研修 I～IIIの内容は、認定社会福祉士の科目から見るとこんな構造になっています。



# 日本社会福祉士会 生涯研修制度

年数は目安

10年

修了申請  
課程修了認定書の発行

## 第2期専門課程 35単位

共通専門・分野専門

スーパービジョン実績

本会独自のもの

・共通専門と分野専門の受講のバランスも考えながら、自ら研修計画を立て、研修を進めてください。

役割：対外的な委員会や  
審査委員会への推薦

申請してく  
ださいね

修了申請  
課程修了認定書の発行

スーパービジョン実践は、実務  
者でなければ受けることができ  
ないため、他の単位基準区分か  
らの代替取得が可能です。

5年

## 第1期専門課程 35単位（基礎課程を含む）

共通専門・分野専門

・専門課程は、皆さん自身で自らの研修計画を立てて、進めていただくこと  
になります。専門性の向上には、共通専門と分野専門のバランスの良い研  
修受講が望まれます。研修計画を立案する際の目安としては、認定社会福  
祉士制度の必要な単位数を参考にしてください。

・認定社会福祉士は各分野での認定となり、認定申請する分野での実務経験  
が必要になります。そのため、現在実践されていない方も認定社会福祉士  
の取得を念頭におき、ご自身で実践したい分野での単位取得をおすすめし  
ます。

・生涯研修制度の単位は、認定社会福祉士認証・認定機構で認められた研修  
と、本会独自のものがあります。

・生涯研修制度の課程修了認定は、必要な単位取得をすれば、申請までの年  
数問いません。

スーパービジョン実績

・認定社会福祉士認証・  
認定機構にスーパーバ  
イザー登録をしている  
スーパーバイザーと、ス  
ーパービジョン契約を  
結び、スーパービジョ  
ンを受けます。

本会独自のもの

・職能団体とし  
て、独自に専門職  
に必要と認める  
事項です。

職能団体として、独自に専門職  
に必要と認める事項が付加さ  
れているため、課程修了に必要な  
単位数が、認定社会福祉士制  
度よりも生涯研修制度のほう  
が5単位多くなっています。

役割：基礎研修ファシリ  
テーター

受講しに来てね  
お待ちしております

## 基礎課程（基礎研修Ⅰ～Ⅲ）

・基礎研修は、毎年各都道府県社会福祉士会で開催しています。入  
会すると、所属の社会福祉士会から開催案内が届きます。

・基礎研修は、全ての社会福祉士にとって共通に必要な内容を含ん  
でいます。社会福祉士会より、開催案内が届きましたら、基礎研  
修の受講申込をしましょう。

・基礎研修のプログラムは、約3年間をかけて受講します。

・基礎研修を修了することで、共通専門10単位と生涯研修独自の単  
位3.5時間となります。

基礎課程履修中の基礎研修以外の研修の受講は・・・

・分野専門の研修や生涯研修独自の研修を受けた場  
合は、第1期専門課程の申請時に充当できます。

所属の都道府県社会福祉士会で基礎研修  
を受講すると・・・

・自分の住む地域の社会福祉士と出会う  
ことができ、ネットワークを構築する  
ことができます。

・ネットワークを活用して、情報交換を  
するとともに、一緒に生涯研修制度で  
研鑽することができます。

各都道府県社会福祉士会に入会

社会福祉士資格取得

# 認定社会福祉士制度

更新  
(5年ごと)

認定上級社会福祉士	
活動イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属組織とともに、地域（地域包括支援センター運営協議会、障害者自立支援協議会、要保護児童対策協議会等）で活動。</li> <li>・関係機関と協働し、地域における権利擁護の仕組みづくりや新たなサービスを開発。</li> <li>・体系的な理論と臨床経験に基づき人材を育成・指導。</li> </ul>
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>①指導・スーパービジョン</li> <li>②苦情解決、リスクマネジメントなど組織のシステムづくり</li> <li>③地域の機関間連携のシステムづくり、福祉政策形成への関与</li> <li>④科学的根拠に基づく実践の指導、実践の検証や根拠の蓄積</li> </ul>
認定要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認定社会福祉士と認定されていること</li> <li>②ソーシャルワーカーの職能団体の正会員</li> <li>③認定社会福祉士資格取得後相談援助実務経験5年以上</li> <li>④定められた経験目標（経験すべき実務）の実績</li> <li>⑤認証された研修の受講</li> <li>⑥教育、研究、社会活動の実績</li> <li>⑦口述試験、論述試験</li> </ul>

## 認定上級社会福祉士の個人認定と認定者登録

※認定社会福祉士認証・認定機構で、個人認定審査を行い、合格者は認定登録機関（日本社会福祉士会）に登録を行います。

### 認定制度のねらい

- ①社会福祉士の質を一定水準以上に保つことにより、社会のニーズに適切に対応できるようにする。また、そのような社会福祉士を可視化する。
- ②社会福祉士が自らのキャリア形成について先の見通しを立て、計画的に研鑽を積み重ねることが可能になる。

### 認定制度の効果

- ①社会福祉士の雇用の安定や待遇改善がなされ、それに伴う職場の定着率の向上が図られ、事業者は安定的な人材確保ができること。
- ②社会福祉士有資格者は認定制度により質の担保がなされるというキャリア形成システムへの信頼は、若年者・未経験者の雇用や育成などにおいてそれらの将来性への信頼とつながること。
- ③後進育成のシステムは、社会福祉士の養成課程へのフィードバックともなること。

**更新** 認定社会福祉士の更新または認定上級社会福祉士の取得は、認定社会福祉士の取得後5年ごととなっています。

認定社会福祉士（〇〇分野）	
活動イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属組織における相談援助部門のリーダー</li> <li>・高齢者福祉、医療など、各分野の専門的な支援方法や制度に精通し、他職種と連携して、複雑な生活課題のある利用者に対しても、的確な相談援助を実践。</li> </ul>
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>①複数の課題のあるケースへの対応</li> <li>②職場内のリーダーシップ、実習指導</li> <li>③地域や外部機関との窓口、緊急対応、苦情対応</li> <li>④他職種連携、職場内コーディネート等</li> </ul>
認定要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉士資格</li> <li>②ソーシャルワーカーの職能団体の正会員</li> <li>③相談援助実務経験5年以上</li> <li>④定められた経験目標の実績</li> <li>⑤認証された研修の受講</li> </ul>

## 認定社会福祉士の個人認定と認定者登録

※認定社会福祉士認証・認定機構で、個人認定審査を行い、合格者は認定登録機関（日本社会福祉士会）に登録を行います。

**実務経験がないと、認定者社会福祉士の認定申請はできません。**

認定社会福祉士認証・認定機構の認証を受けた研修の決められた単位数の受講、スーパービジョン実績が必要になります

## ■認定社会福祉士制度に必要な単位

科目の分類・名称		認定申請に必要な最低単位数			
		必修	選択必修	選択	
共通専門	ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ	2		2	
	権利擁護・法学系科目Ⅰ	2			
	サービス管理・人材育成・経営系科目Ⅰ	2			
	地域開発・政策系科目Ⅰ	1			
	サービス評価・実践研究系科目Ⅰ	1			
分野専門	「高齢」「障害」「児童・家庭」「医療」「地域社会・多文化」から認定を受けようとする1分野	各分野の制度等の動向	1	9 各科目から最低1単位以上	
		支援の実際	理論・アプローチ別科目群		
			対象者別科目群		
S V	スーパービジョンを受ける	SW機能別科目群			
		単位小計	19	9	2
単位合計		30単位			

基礎研修Ⅰ～Ⅲを修了することで、共通専門10単位となります。

認定申請にはその分野の研修履修だけではなく実務経験が必要になります。

「分野」は「高齢」「障害」「児童・家庭」「医療」「地域社会・多文化」の5分野です。福祉事務所の生保ワーカーや社会福祉協議会の福祉活動指導員などは、「市域社会・多文化」になります。

ソーシャルワーカーの職能団体に加入する

社会福祉士資格取得

# 認定社会福祉士制度 イメージ図

